

Momoyama Volunteer Express MOVE

January 22, 2018
Vol.
37

4回生の私たちが、みんなに伝えたいこと。

01 色々な目線で話せる、 社会福祉士になるために。



平井 つぐみさん
(社会福祉学科)

はじめは大学進学を考えていなかった私。小さい頃は入院することが多く、病院でパソコンをよく使っていたので、高校では工業科に入り、パソコンの勉強をしていました。大学進学を目指したのは、18歳になり自分で福祉のサービスを利用していかねばならないと思い、同じ病気を持ったワーカーさんとお話したことがキッカケ。その人への憧れを持っていたとき、社会福祉士の資格を持っていることを聞き、その資格を取得するために桃大への進学を決めました。

私の学科には聴覚に障がいのある同級生が2人いて、すぐに仲良くなりました。ただ、2人が話すとき、基本は手話…。もちろん私はその間、何を話しているか全くわかりません。「それなら、私が手話を覚えよう!」と思い、手話部に入り、そこで右に掲載されている大草さんに出会いました。私は昔からコーラスをしていたので、みんなに手話コーラスを提案。去年11月の学園祭で披露でき、予想より多くの方が来てくださったことが思い出に残っています。手話部のメンバーが少なくなったとき、どうすれば手話に興味を持ってもらえるのかを考えたのも、今となっては良い思い出。大学卒業後は手話検定を受ける予定です。



卒業後は、冒頭にお話した、18歳のときに会ったワーカーさんのように、就職先で障がいのある人や地域の人とお話し、課題を解決できるようになりたいと思っています。そのためには、障がいのある人の目線だけで話さず、健常者の視点でも物事を考えていく必要があると思っています。その考え方を、桃大の4年間で学ぶことができました。社会人になったら大好きなコーラスも、再開させたいと思っています。

02 平井さん達との出会いで、 私の進む道が変わった。



大草 みどりさん
(法学部)

私が桃大の法学部に入学したのは、祖父が法律関係の仕事をしていてカッコいいなあ…と思ったから。そんな私が桃大に入学して、聴覚に障



がいのある仲間をサポートするパソコンテイクの活動や、手話部で活動するのは入学前は夢にも思っていませんでした。

1回生の頃に平井さんや聴覚に障がいのある仲間と出会っていなければ、全く違う活動をしていたと思います。彼女たちとの出会いで、私の生き方や夢も変わりました。大学生活はどうなるか、本当にわかりませんね。

パソコンテイクを始めたきっかけは、タイピングスピードに自信があったから。ただ、先輩達はそれ以上に早く、挫折しかけたこともあり。少しでも友だちの力になりたい!とタイピングの練習を続け、最終的には先輩を指導する役割を任せられるようになりました。

このパソコンテイクで聴覚に障がいのある仲間との距離が縮まり、手話部に入るキッカケにもなりました。また、彼女たちと仲良くなるにつれて、福祉の仕事に興味を持つようになり、障がいのある方が働いているカフェで2年間アルバイトをしていました。冒頭でお話しましたが、法律の仕事に興味があった私が、今は福祉関係の仕事を目指しています。

それ以外でも、大学では図書館書評賞の書評に挑戦したり、パイプオルガン講習にも参加し、先月皆さんの前で披露したりと、色々なことにチャレンジできた4年間でした。やらない後悔より、やる後悔。何事もまずやってみることが大事ですよ!

03 桃大でみつけた、サッカーと違う達成感。



露無 亮介さん
(経済学部)

高校まではサッカー漬けの毎日。全国大会出場を目標に3年間練習してきました。高校生の頃の僕が今の僕を見ると、大学でボランティア活動をしていることに、すごく驚くと思います。桃大に入学後も、何かスポーツを続けたいな…と、漠然に思っていました。

大学でもサッカーサークルに入っていました。ここまで充実した学生生活とは思えず、2回生のときにボランティアスタッフに入ったきっかけも、「友人に誘われて」。ただ、そのボランティアから多くのことを学びました。ずっと子どもと関わるのが苦手と思っていたのですが、子どもと接したことがないだけで知ることでもできたり、大人数でボランティアの企画を成功させたことも、サッカーでの達成感とはまた違うものだと知ることができました。



僕は桃大に入るときから、「地元の岡山県に戻って銀行で働くことができればいいな…」と考えていました。それは夢のまま終わるかなと思っていましたが、3回生のときにファイナンシャル・プランナー2級の試験に合格したことが自信につながり、結果として第1志望の銀行から内定をいただくことができました。高校時代にサッカーを頑張ってきた僕が、体育会系とは違う桃大での4年間で、他のことでも頑張って結果を出せたことが自信につながりました。

岡山県に戻っても、地元のお祭り等の行事には積極的に参加し、街の活性化につながるボランティア活動を続けたいです。また、就職先にはフットサルサークルがあるので、久しぶりにサッカーをしてみようと思っています。



04 ポータルサイトの情報に、色々なチャンスがあった。



高下 恭平さん
(経済学部)

1回生の頃、桃大のポータルサイト、M-Portからボランティアの案内が届き、1人で何回かボランティアに参加していました。ただ、それ以外は大学で何かをしているというわけでもなく、もっと学生生活を充実させたいと思い、2回生からボランティアスタッフに入りました。



1人で参加したボランティアも楽しかったから、チームで活動できれば楽しそう…と思っていましたが、予想通り！子ども達どのように関わればいいのかわからないとき、僕の気持ちを察して先輩方が接し方を教えてください、「あ。ずっとボランティア続けよう！」と思った瞬間を今でも覚えています。僕も後輩が困っていたら、積極的に声をかけするように心がけていました。

ボランティア活動から本当に色々なことを学びましたが、ここでは到底書ききれません。住んでいる地域や学部もバラバラのボラスタの同学年のメンバーと出会えてよかったです。卒業後もずっと仲良くしていけると言い切れる仲間になりました。

僕のファイナンシャル・プランナー2級の試験に合格に発奮され、左に掲載されている露無くんもその資格取得に本腰を入れることができたことと聞いていたので、ボランティア以外でもお互い切磋琢磨しながら、勉強や就職活動も頑張ることができました。

桃大生の皆さんに伝えたいことは、大学の外で活動することもできますが、是非大学の中で色々な活動にチャレンジしてほしいです。M-Portを注意深く見ていると、本当に大学で色々なことを体験できます。その中から、自分が一番興味のあるものを突き詰めていけば、きっと充実した大学生活を過ごすことができますよ！4年間は本当に、あっという間。色々な経験をしてください。



05 3回生になってからでも、スタートできる環境があった。



藤井 咲さん
(経営学部)

関西イコール商人の町。そのイメージが強かった私は、関西圏の大学への進学を考え、鳥根県から桃大の経営学部に入學しました。イタリア語の勉強もしていた私。イタリア語劇にチャレンジしていたとき、右に掲載されている近藤さんと知り合いました。まず1回ボランティアをしてみよう！合わなかったら辞めていいから！と誘われ、3回生からボランティアスタッフとして活動しました。

ボランティア活動は子ども達やその保護者の方々、ご高齢者といった幅広い世代の人と接することができます。ただ接するだけならアルバイトでもできますよね？アルバイトと違うところは、ボランティア活動は同じ目的意識を持った人たちと一緒に活動すること。その中で、色々なことを学べました。

卒業後、動物が好きな私はペットの商品を扱う会社に就職し、大阪に残ります。ボランティア活動を始めて、まだ2年の私。社会人になっても、ペットと携



わるボランティア活動を続けていきたいと思っています。

同期のボラスタメンバーの多くが地方で仕事をする事になり、今までのように集まることは難しいかもしれませんが、定期的集まる機会を作ろうと思っています。

また、冒頭でお話したようにイタリア語の勉強もしていましたが、実はまだ海外に行ったことがないので、イタリア旅行に行きたいという夢もあります。桃大生の皆さんも、少しでも興味の持ったものがあれば、4年間のうちに色々体験することを心がけてください。4年間は長いようであつという間に過ぎていきます。3回生や4回生からスタートできる活動も、きっとありますよ！



06 ボランティアを続けてきた僕が、地元の福井県に戻る理由。



近藤 大起さん
(国際教養学部)

「友だちできるのかな…」、「関西弁怖そうだな…」。入学前、福井県出身の僕は初めての関西での生活が不安でいっぱいでした。ただ、4年間を振り返ると、充実した大学生活を過ごせたと感じています。

ボランティア活動をする中で自分の力になったと感じるのが、聴覚に障がいのある仲間の講義をサポートする、ノートテイク。はじめは先生の話している言葉を要約する自信はありませんでした。ただ、活動を続けるにつれ、先生が強調したい部分や、テストに出そうな部分を理解できるようになりました。

僕はボランティアスタッフも4年間続けてきました。活動中の「ありがとう」の言葉が、僕の喜び・やりがいに変わりました。また、一緒に活動した大切な仲間もたくさんできました。親切な先輩、僕を慕ってくれる後輩、出身地はバラバラだけど気の合う同期と出会えたことが、僕の大きな財産になりました。



僕は福井県にUターン就職します。地元の友人は都心部で就職することが多く、僕も大阪での就職を考えた時期もありました。ただ、高齢化が進んでいく福井県を見ていると、「何か地元の力になりたい」という気持ちが日に日に強くなりました。この気持ちはボランティアの「人の役に立ちたい」という気持ちと、近いのかもしれない。

桃大生の皆さん、まず1回ボランティアに参加してください。楽しいし、学べることも多いです。「ボランティアが合わないと思ったら、無理して続ける必要はないよ！」僕が後輩や左に掲載されている藤井さんにそう言い続けてきたのは、桃大にはチャレンジできるものがたくさんあるから。皆さんも、これだ！と思うものを見つけ、取り組んでください。



07 粘り強く続けること。 それが大事と知った4年間。



栗木 駿兵さん
(法学部)

僕は吹奏学部で4年間所属しました。その中でも、平日の夜からある、関西圏24大学の吹奏学部の人達が定期的に集まる会議に桃大を代表して参加し、イベントや加盟校間の合宿を企画したことが自信につながりました。片道2時間。車椅子で生活している僕は体力面を心配して



ましたが、最後まで続けることができました。色々な大学の人たちと知り合うことができ、本当に良い経験になりました。

就職活動では、粘り強く続けることを決め、43企業の採用試験に挑戦。この数字は、健常者の皆さんには普通のエン

トリー数かもしれません。ただ、障がい者枠の求人は少なく、体力面を考慮しながらこの数の企業を受けたことも、僕の自信につながりました。

就職活動が進むにつれ、車椅子の方を受け入れた経験のある企業は少なく、対応方法がわからない企業が多いと気付きました。そこで、自分の身体について、わかりやすく伝えることを心がけながら就職活動を続け、10月に第1志望の会社から内定をいただくことができました。

僕は失敗してもいいから、健常者のみんなの輪の中に入ることを常に心がけていました。そうすれば、何か熱中できるものを見つけたり、集団の中に入ることで人間関係を構築する力も身につきます。その中で、先ほどお話しした自分の身体について、わかりやすく伝える力を身につけることができました。吹奏学部の活動から、自分を大きく成長させることができました。なんとなく大学生活を過ごしていたら、あっという間に過ぎていたであろう4年間。僕にとっては本当に充実した4年間でした。



08 百聞は一投にしかず！ 僕の夢は、始まったばかり。



吉見 成生さん
(社会学科)

桃大に入るまでは知らなかった「ボッチャ」というスポーツに出会って、僕の人生は一変しました。一昨年は全国大会に出場でき、ベスト8まで勝ち進むことができました。はじめは目標だったはずのベスト8という成績。ただ、それに満足していない自分がありました。練習を重ねて臨んだ昨年11月の全国大会では3位になり銅メダルを獲得できました。練習量を増やし、メンタル面も強化した成果が出ました。ただ、準決勝ではリオパラリンピックの銀メダリストと対戦し、実力差を感じたので、まだまだ頑張らないと！

諦めない気持ち。ボッチャを始めてその気持ちが変わりました。今回の3位決定戦の試合でも、途中までは0対3のビハインド。ボッチャは逆転することが難しい競技なので、昔の僕なら絶対に諦めていたはず。そこから逆転し勝利できたことは、大きな自信につながりました。

今回銅メダルを獲得したことで、大学で知らない人からも「おめでとう！」の言葉をたくさんもらえて驚いています。このMOVEが発行される直前に日本代表の選考会があります。実力が拮抗している3人で1枠を争いますが、何とか日本代表になり、目標のオリンピック出場に一步でも近づきたいです。



百聞は一投にしかず！僕はこの言葉をスローガンにしています。「やってみると、わかるへん。」何となく始めたボッチャが、僕の生き甲斐になり、1番大きな目標になっています。皆さんも、意外なところに人生が変わるキッカケがあるかもしれません。他の4回生の仲間も言っていますが、大学生活で何か打ち込めるものを、是見つけてくださいな。

